

技術のおたずねにこたえて

【おたずね】 木箱（エゾマツ）詰め筋子を製造販売していますが、筋子に木材臭がついているとクレームがありました。臭いの原因はどのような物質でしょうか。また、その対策もあわせて教えてください。（S市S水産食品会社）

【おこたえ】 エゾマツ材にはしばしばヤニツボとよばれる樹脂（松ヤニの類）がたまるところが見られます。この樹脂は精油とよばれる揮発性の油状成分を含んでおり、この精油成分がエゾマツならエゾマツ、スギならスギのといった、木材固有の香りを作っています。ところで、精油は純粋な物質ではなく、テルペン類などの揮発性物質の寄せ集めといえます。エゾマツそのもののデータが手元にみあたらないので、近縁樹種の枝条油の組成を参考にしますと、 α -ピネン（松様樹脂臭）、 β -ピネン（松脂香）、テルピノーレン（樹脂香）、ミルセン（甘いバルサム香） カレ

ン（甘い芳香）、リモネン（オレンジ香）などのモノテルペン類がエゾマツ材の香りの特徴づけている成分と思われます。ご質問にありました筋子についての木材臭の原因はこれらのモノテルペンであると思われます。いずれも成分の広く針葉樹の葉、樹皮、木材中に存在しており、人体にも無害ですが、松ヤニ臭のある筋子は消費者から敬遠されるかもしれません。

さて、対策ですが、十分に乾燥していない木材、とくに製材したばかりの生材で作られた木箱に食品を入れて冷蔵庫などの密閉したところに長期間保存しますと、どうしても木材の臭いが食品についてしまいます。これは臭い成分の性質上さげられません。したがって、筋子の製造工程から木材の箱に入れないことや、木箱語で出荷する際には十分に乾燥した木材を使うことなどである程度木材臭がつくのを防げるでしょう。

（林産試験場 成分利用科）